

# 幼児日本語教室 ジャルジン

子どもの国では、「幼児のための日本語教室ジャルジン」を、8月から保見公団で、10月から伊保こども園で始めました。

保見公団では毎週木曜日、午後3時から4時まで、6人の幼児たちが楽しく一生懸命、日本語を勉強しています。

伊保こども園では、月に一度、第2水曜日に園の教室をお借りして行っています。公団とは別の6人の幼児たちが同じように日本語を勉強しています。

日本人と同じ子ども園に通い、園の先生方やお友だちと日本語で日常のやり取りをする子どもたちは、一見すると日本語に対して何の支障もないように見えます。しかし基本の語彙が足りず相手に十分理解されなかったり、文ではなく単語で返事をしたりと、日本語の面で困ることがあるようです。

この教室が子どもたちの日本語力を伸ばし、小学校で学習するための力をつける助けになればと思います。



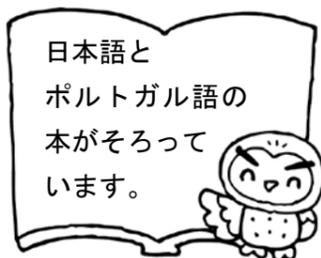
# 子どもの国 だより

2020年11月発行 Vol.43



## 「ゆめの木教室」と「ジャルジン」(幼児日本語教室) 読書活動

家庭でも絵本の読み聞かせができるように、「ゆめの木教室幼児クラス」では、絵本の貸し出しをしています。毎回、保護者や子どもたちが家で読む本を借りていきます。



- 放課後学習支援事業「ゆめの木教室」  
小中学生：月曜日～金曜日
- 青少年の自立支援事業「そら」  
木曜日：午後6時～8時
- 幼児日本語教室「ジャルジン」  
伊保教室 毎月第2水曜日  
保見教室 毎週木曜日

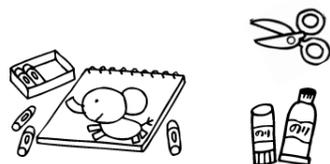
- 青少年の健全育成のための事業  
問題を抱えた子どもとその家族に対し  
随時相談・援助を行なう
- 交流会 年4回開催



# ゆめの木教室

「ゆめの木教室」ではスタッフ間で子どもの様子を共有するため、毎日メールで報告を行っています。  
令和2年10月 ある日の「ゆめの木教室」報告

- 1年：ひらがなの五十音表は少しずつ一人で読めるところが増えてきました。
- 1年：1桁のたし算が指を使ってできます。
- 1年：算数の文章題で何算を使えばよいか分かります。「どちらが何個」の問題では、「どちらが」を答えに書くことを勉強しました。
- 3年：わり算の余りを出すのに時間がかかります。
- 4年：わり算の筆算はできました。繰り下がる2桁-1桁の暗算ができました。
- 4年：はじめは全くやる気が見られませんでした、音読からは声が出せるようになりました。
- 5年：漢字のテストでは、1問間違えただけでした。よく頑張りました。
- 5年：進んで課題に取り組むことができました。とてもやる気で張り切っています。
- 6年：平家物語の最初の部分が音読でした。読解の宿題もよく読んで考えていました。まじめな学習ぶりでした。
- 6年：分数のたし算ひき算で通分ができていたのは彼だけです。日本語で話したくてしょうがないようです。運動場にカマキリがいたことを話してくれました。
- 6年：やるべきことは真面目に取り組んでいるのですが、まだ九九をばらばらで質問するとすぐには答えることができません。



**「ゆめの木教室」卒業生が遊びにきてくれました。**

## 東海理化さんより、フェイスシールド90個をいただきました。



ありがとう  
ございます！！

早速、使っています



## 「ゆめの木教室」中学生

今年度の中学生は、1年19名、2年4名、3年2名で、例年に比べて、とても人数が多く、時間的にも場所的にも今までの「6時まで」では対応できない現状です。

そこで、2、3年生はこれまで通り2時から6時の時間帯で、人数の多い1年生は、月曜と木曜の6時から7時半までの時間帯で受け入れることにしました。

また、コロナ対応で、大学生スタッフがスカイプでのオンライン学習を水曜と金曜の夜にやってくれています。

対面学習では、中京大学の学生が数名ボランティアに入ってくれていて、ほぼマンツーマンで学習することができています。



計算だけでなく、方程式や関数などもしっかり学習しています。



## 「ゆめの木教室」九九検定



九九（くく）81で終わる九九のかけ算の学習は、2年生の秋から始まります。算数でとても大切な九九の学習ですが、正しくできるようになるには、一人ひとりががんばらなくてははいけません。

九九をもとにした計算は、3年生のわり算、かけ算の筆算、4年生のわり算の筆算、5、6年生の分数の計算等、そして中学校の数学と続いていきます。

今まで九九が正しくできずに苦労している子が「ゆめの木教室」にもよくいました。そのたびに教えるのですが、なかなか身につけません。

そこで「ゆめの木教室」では、月に1回全員に九九のテスト（九九検定）をすることにしました。初めは全部を正しく言えない子もいましたは、今では、ほとんどの子が正しく言えるようになりました。

でも、本当は九九は正しく言えるだけではだめなのです。かけ算、わり算の筆算では、一つの計算をするのに何回も九九を使います。だから速くできないと、とても時間がかかってしまいます。

そこで時間の目標を含めた1~6級の段階をつくりました。それぞれの級の目標は次の通りです。

- 1級 ①1~5の段 ②6~9の段
- 2級 1~9の段が全部できる（2分半）
- 3級 ばらばらの44~45問が2分半でできる
- 4級 あなあき九九の63~64問が4分半でできる
- 5級 わり算63~64問が3分半でできる
- 6級 あまりのあるわり算47~50問が4分半でできる

